

令和 8 年度  
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：0 歳児クラス)

モニカ都立大園



## テーマ

# 砂と私

### 設定理由

4月、園庭で様々な自然に触れている中で、砂の感触に興味を持つ姿が多かった。また、ハイハイやずりばいをする時期なので、保育室内とは違う地面の感触を肌や目で感じている姿もあった。部屋からも見える園庭という身近な自然の中で、保育者や友だちと気持ちを通わせ、安心して自分自身を表すために砂を選んだ。

### 対象クラス

0歳児クラス・6名

### 活動のねらい

砂と私との関わりを深める

### キーワード

「気持ち良いね」「くっついたね」  
「無くなったね」

### 活動期間

令和8年5月～7月

### 活動回数

計3回

## 活動①

### 手で砂に触れる

#### 準備物

タライ | 園庭の砂 | レジャーシート

#### 環境構成

廊下の壁側に園庭の砂が入ったタライを置く。  
保育者1人：子ども2人。



## 活動②

### 砂をなぞる

#### 準備物

机 | 紺色の画用紙 | 園庭の砂 | レジャーシート

#### 環境構成

廊下に紺色の画用紙を敷いた机を設置。その上に園庭の砂を乗せる。  
保育者2人：子ども2人。



### 活動③

## 濡れた手、足で砂に触れる

### 準備物

水の入ったタライ | 園庭の砂 | アクリルボックス

### 環境構成

戸外のデッキに水の入ったタライを置く。  
保育者2人：子ども3人。





タライに入った砂。手を伸ばさずにじっと見つめる。保育者がそっと砂に触れて見せると、ゆっくりゆっくり手を伸ばし、指先で触れ始めた。

その手の上に砂を落とすと、砂の動きを目で追い、手に乗った砂を反対の手の指で突つつく。手を振って砂を振り落とそうとする。

次第に表情が和らぎ、両手をタライの中に入れ始めた。平泳ぎのように砂をかき分けると笑顔になる。

～自分の手で、砂を動かす～

砂を握り手を開くと、砂が落ちた。

それを自分の体に落として見せ、保育者の顔を見て笑った。

私たちはその微笑みに応えるように、うなずき言葉をかけていく。

「どうぞ」と砂を渡してくれたら「ありがとう」と返す。砂を介して、子どもと保育者の気持ちが通い合った瞬間。

その後も自分の手で砂を動かしながら、夢中になる。

入園して間もない時期。少しずつ慣れてきた保育園での暮らしの中で、園庭で遊ぶ機会も増えてきた。砂を見つけると自然と手を伸ばし楽しむ姿から、砂をテーマとして活動をしていくことにした。

「なぜ砂は触ってみたいくなるのだろう？」砂の性質や特徴を考えながら、子どもが砂とどのような向き合い方をしているのかをじっくりと観察することができた。

保育者との関係性の構築にも繋がりを持てるよう関わることを意識していったが、言語化するだけでなく、近くで見守ることの大切さにも気付くことができた。



園庭の砂を黒い画用紙に乗せる。

砂の存在に気付くと手の平で叩いたり、手を左右に動かし、砂の感触を確かめようとしていた。

途中、保育者が指で砂をなぞると、それを目で追う姿が見られた。

砂をなぞった後に見られた「線」を指差す。

すると顔を近づけて、その「線」をしばらく見つめていた。

“あれ？ここにも”と他の線を見つけ、指を指して保育者に伝えようとする姿も見られた。

“自分でもできるかな？”

そんな風に砂に触れてみる。

指先は難しいけれど、偶然できた「線」(模様)に眼差しを向ける。

それぞれの子どもの動きによって浮かび上がってくる「線」(模様)。

まっすぐだったり波線だったり。

またそれが消えてなくなり、新しい「線」(模様)ができる。

次々と変化する砂の形に魅了される子どもたち。



保育者の指の動きを模倣する中で気づいた砂の「線」。そこから生まれた新たな視点。何度も繰り返すことは、子どもの学びにおいてとても重要であること、そして環境構成の大切さも感じる事ができた。

一人ひとりの反応、仕草や表情を見逃さず、今後も砂との関係性を深めていきたい。



水を入れたタライ。砂を入れたタライ。

まずは水に手を入れてみる。

冷たくて心地よい、何度も手を入れる。

足も入れてみよう。

びしょびしょに濡れた手や足。

そのままいつもの砂に触ってみる。

“あれ？”

砂がくっついて離れない。



私たちは「水と砂と私の身体」の関係性を感じられるような言葉をかけていく。

砂が付いた手、足を今度は水の中に入れてみる。

すると砂がみるみる手や足から落ちていく。

「ない。ない」と言葉にして、砂が付いていない手と足を見つめる。

もう一度やってみよう。



乾いた砂でも手や足に砂が付くことはあったけれど、水で濡らした手や足には驚くほど砂がくっつくことを経験した子どもたち。でも水に入れるとその砂は全部落ちる。

そんな不思議に魅了され、何度も繰り返す姿から、この活動に対して面白さを感じている様子が伺えた。

いつもの「砂」と掛け合わせる素材として「水」を選んだが、砂の持つ可能性をどのように見出せるのか、今後も考え続けていきたい。

使用物

砂 | アクリルボックス | 机

テーマ：砂と私

## 全体の振り返り

---

園庭に出ると自然と手を砂に手を伸ばす子どもたち。改めて、砂の”何に魅了されているのだろう”を考え続ける機会となった。当たり前にある砂を、あえて没入できるような環境へといざない、向き合う時間を大切にしてきた。また、保育者の言葉かけ、うなずき、見守りなど、さまざまな関わり方を過ごす中での学びも多かった。生まれて初めて保護者と離れて過ごす保育園。この活動を重ねる中で、保育者との関係構築にも良い影響があったと思う。その安心がクラス全体へと広がり、今後の活動も保育者や友だちと楽しく行えることを願う。

終



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ都立大園**

〒152-0034  
東京都目黒区緑が丘1-2-14  
TEL:03-5726-9145  
FAX:03-5726-9146